

姉崎さんは空と水の色に注目した。でも、深い青でも鮮やかな青でもなく、明るくさわやかなパステルカラー。みずみずしくも穏やかな水色の街は目にも人にもやさしいにちがいない。(選考委員 三浦 佳世)

水色の街、福岡

福岡に住み始めて半年。この街の印象は「水色」である。国内線で空路から福岡入りするとき、着陸態勢に入る頃に目に飛び込んでくるのが白い弧を描くように伸びる海の中道の海岸線だ。白い砂浜から薄い水色、深い青へとグラデーションがかかる美しい海岸線が私たちを出迎えてくれる。いつも胸が高鳴る瞬間だ。



空港に降り立ち、街へ出るとガラス張りの建物が目につく。天神周辺では福岡三越やエルガラ、博多リパレインなど。百道浜では福岡タワーやオフィスビル群などに見られる。晴天時には空の青さが反射され、美しい水色の塔となる。ガラス窓に開かれたアトリウムも多く、リパレインの空中庭園などは大きなテラス窓か



姉崎 幸子
福岡市中央区

ら青空と街並が見渡せて気持ちのよい場所だ。

市内の中心には那珂川が流れる。大都市の中心街を流れる川にしては澄んだ水の色であるように思う。川底には魚の姿も数多く見られる。ゆらめく水面にネオンサインや屋台の提灯の色が映り込む様も博多の風情を感じさせて高揚感がつくる。他にも大濠公園やキャナルシティの運河など、水の流れる風景がよく見られる。地下街でさえ「天神かつばの泉」という泉が目を惹かせる。そして私にとって身近な水色といえば、何といても魚どころ博多の市場に並ぶ魚の背の色だろう。おびただし種類魚がピチピチと飛びはねながら鮮やかに並んでいる様子は、いつも見てもこの食材の新鮮さと豊富さが博多の食文化を支えているのだという思いを抱かせる。豊かな食材が家庭の食卓を彩り、飲食店で提供され、明日への活力を生み出す。活きた食材がまた活きた街をつくる。博多の街はいつも水色のエネルギーが燃え上がり、大きく循環しながら渦巻いている。

第5回 福岡市景観エッセー選考作品

ここは、私にとっておきの場所です。ゲームセンター、レゴブロック、洋服屋さん、ソフトクリーム屋さん……。一番好きなのは、かんらん車です。ここは海の色、青です。でも夜は、かんらん車の光、たてものの光……。いろんな光がまざって、ほうせきをちりばめたような色になります。本当にきれいです。



岩下 葉月
福岡市西区

タイトルがうまい。この場所の感じた、フェイクな感じが因らずも伝わってくる。エッセーの本文もとても上手である。子どもの目から見た「ここ」の魅力が、短い文章のなかでさらさら輝いている。(選考委員 菊地 成朋)

ほうせきばこ